



国立長寿医療研究センターで提供する最新の医療とケア（1）

ポイント

- 1,145例の鑑別診断と多種職および地域連携で支える認知症診療を提供
- 外来窓口での個別相談（診断後支援）
- 認知症専門医療相談

- 新しい抗アルツハイマー病薬（レカネマブ・ドナネマブ）による治療を推進
 - 最大限の安全性の確保
 - 本人・家族への情報提供により最善の治療法選択を支援
 - レカネマブ・ドナネマブ治療を行わない方への他の治療法の提案

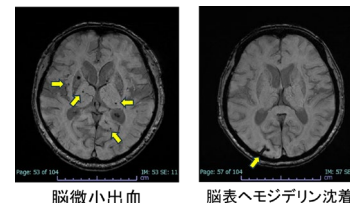
（1）診療実績（R6年度）

外来診療		鑑別診断 (初診)	再診数	高齢者総合 評価の実施	
R6年度の診療件数		1,145件	7,704件	1,361件	
年次推移	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
□ □ □ □ □ □ □ □	841件	1,054件	917件	1,002件	1,145件

（2）新たな抗アルツハイマー病薬（レカネマブ・ドナネマブ）による治療の推進

特徴1

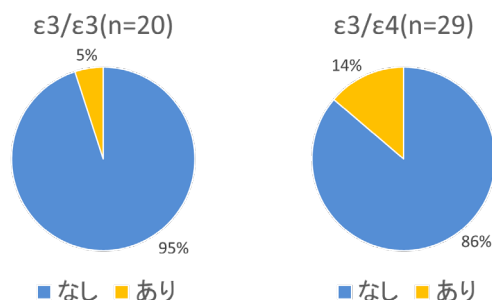
MRI磁化率強調像(SWI)を用いた微小な出血性病変の検出により、安全性を最大限に確保している。(抗アルツハイマー病薬治療前の適応判断および副作用の早期発見に活用)



特徴2

バイオバンク登録済の抗アルツハイマー病薬治療の対象者に、全国に先駆けて希望に応じて**APOE遺伝子型**を開示し、副作用の発生率を踏まえた治療法の選択の判断材料として活用してもらっている。

当センターにおけるAPOE遺伝子型別のARIA-E（副作用）の出現状況



当センターでレカネマブやドナネマブの使用を開始した者において、臨床試験と同様、APOE遺伝子型（検査は本邦未承認）でε4を持っている者はARIA-E（図）やARIA-Hといった副作用が多く出現している。

特徴3

レカネマブ・ドナネマブ治療の対象とならなかった方や希望されなかった方に他の治療法を提案している。

- 他の治療法による治療
- 脳・身体賦活リハビリテーション
- 本人・家族ペアを対象にした認知症教室（診断後支援）等

レカネマブ

	令和 6年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
使用開始	5名 (治験 から)	2名	5名	4名	5名	4名	3名	2名	4名	2名	1名
	令和 7年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	合計			
使用開始	1名	4名	0名	1名	1名	2名	3名	49名			

ドナネマブ

	令和7年3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
使用開始	7名	6名	2名	3名	1名	2名	21名



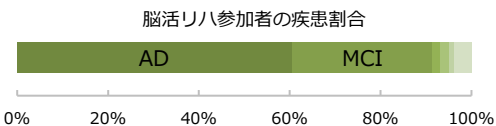
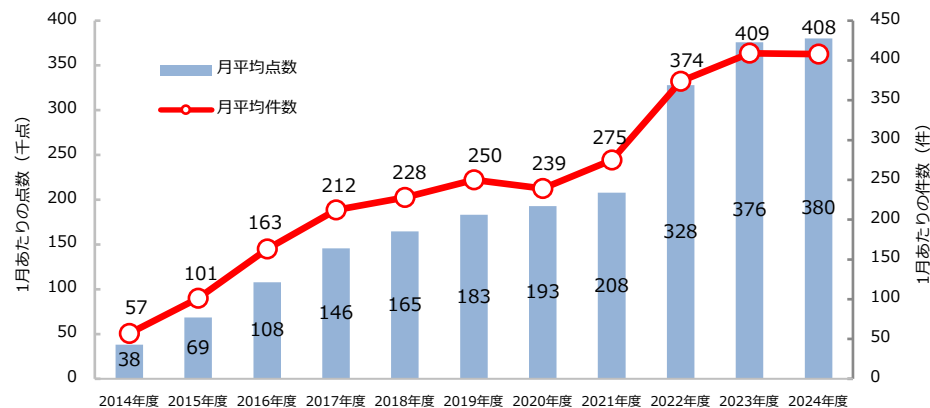
国立長寿医療研究センターで提供する最新の医療とケア（2）

ポイント

- 脳・身体賦活リハビリテーション
- 軽度認知障害ならびに認知症者に対するeスポーツを含む多因子介入（デジタルヘルスプログラム）の効果検証

（1）脳・身体賦活リハビリテーション（脳活リハ）

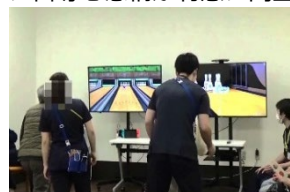
■ 認知症や軽度認知障害に対し、身体機能や認知機能の維持・向上を目指す目的で、2014年から脳活リハを開始した。コロナ禍で一時参加者が減少したものの、下図の通り、2024年度には過去最高の実績となった。



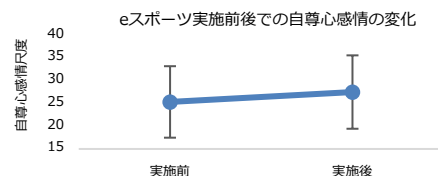
脳活リハでは認知機能だけでなく、身体機能向上を考えたプログラムも実施している。

■ 認知症者に対するeスポーツを含むデジタルヘルスプログラムの効果検証

eスポーツを含む多因子プログラムの実施前後で認知症者の自尊心感情を評価した結果、実施後に自尊心感情が有意に向上した。2025年度には多施設でのランダム化比較試験を行っている。



ボーリングゲームを楽しむ認知症者



- 本人・家族ペアを対象に認知症教室（診断後支援）
- 若年性認知症支援
- 地域連携の推進（あいちオレンジタウン構想）

（2）本人・家族ペアを対象にした認知症教室（診断後支援）

軽度認知障害または認知症の人とその家族を対象に**4点の特徴**を有した心理社会的介入プログラムの効果検証を無作為割付試験で実施中。



特徴1 軽度認知障害および認知症の人と家族の同時参加型

特徴2 グループ型

特徴3 理論とニーズに基づいたマルチコンポーネント型プログラム
 ・回想法
 ・ストレスマネジメント理論
 ・レクリエーションアプローチ（音楽・漫才）

特徴4 非専門職によるリード（写真）

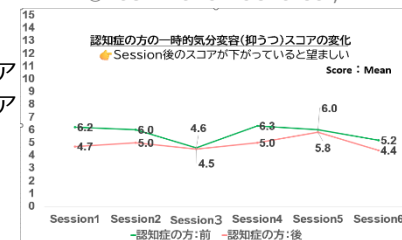


©YOSHIMOTO KOGYO CO., LTD.

進捗状況 2025.9.30最終クール終了
 介入群（教室参加）50ペア/50ペア
 対照群（資料送付）50ペア/50ペア

社会実装 2025.10月～

プログラムの社会実装プレ調査
 ・中山間地域での実施→望ましい実施形態探索（高齢化率31.4%、積雪量多いエリアで閉じこもりが多い地域）
 ・学区社協、民生委員等によるプログラム運営の課題探索



▲Pilot study結果より

（3）地域連携

- ・あいちオレンジタウン構想
- ・若年性認知症の新規支援が54件
- ・認知症地域医療連携協議会
- ・愛知県：認知症疾患センター事業評価
- ・老健事業（認知症の背景疾患等の実態ならびに専門的対応マニュアルに関する調査研究事業）での提言